

生野中学校区 学校適正配置検討会議（第4回） 会議録

1 日 時 令和2年9月30日（水） 午後7時から

2 場 所 生野区役所 6階大会議室

3 出席者

（委員）

石川 隆久委員、浮田 和之委員、大西 範幸委員、金城 知男委員、菰池 愛委員、
下村 泰子委員、田中 典姫委員、古瀬 浩久委員、森 秀直委員（座長）、
吉田 貴司委員

（学校）

楠井 誠二（生野中学校長）、末田 美幸（林寺小学校長）、中山 吉一（生野小学校長）、
庄司 量士（舍利寺小学校長）、禰宜田 陽子（西生野小学校長）

（教育委員会事務局）

山口 照美（生野区長兼生野区担当教育次長）、川本 祥生（政策推進担当部長）、櫻井
大輔（生野区副区長兼生野区教育担当部長）、樋口 義雄（総務部首席指導主事兼生野区
役所こども未来担当課長）、花月 良祐（総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域
活性化担当課長）、大川 博史（地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教
育担当課長）、三宅 俊之（総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域ま
ちづくり課地域活性化担当課長代理）、川楠 政宏（地域活性化担当課長代理兼教育委員
会事務局総務部教育政策課生野区教育担当課長代理）、吉沢 雄（指導部総括指導主事兼
総務部教育政策課総括指導主事、学事課総括指導主事）、竹口 一吉（学事課担当係長）、
竹中 一郎（生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課
担当係長）、白石 秀一（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委員会事務局総務部教
育政策課係員）、西川 明宏（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委員会事務局総務
部教育政策課係員）

（傍聴）1名

4 議題

- (1) 標準服等専門部会の進め方について
- (2) 校章・校歌専門部会の進め方について
- (3) 教育内容に関する進捗状況について

5 議事要旨

(1) 行政からの説明

【標準服等専門部会の進め方について】

（標準服等専門部会長である森委員より報告）

（報告資料1に沿って報告）

- ・9月16日に標準服等専門部会（第1回）を開催し、森委員が部会長となった。
- ・今回の専門部会では、標準服等専門部会における今後の進め方について、行政案を参考に意見交換を行った。
- ・「保護者が、新しい標準服等に求める意見を集約するため、学校を通じてアンケートを実

施する。」「アンケートの実施及び集計と並行して、専門部会において、標準服等の種別やデザイン等の大枠について意見交換を進める。」ことを専門部会において確認した。

- ・今後のスケジュールは、報告資料1の裏面に表としてまとめている。

【校章・校歌専門部会の進め方について】

(校章・校歌専門部会長である吉田委員より報告)

(報告資料2に沿って報告)

- ・9月23日に校章・校歌専門部会(第1回)を開催し、吉田委員が部会長となった。
- ・今回の専門部会では、校章・校歌専門部会における今後の進め方について、行政案を参考に意見交換を行った。
- ・校章については、「次回の専門部会において学校の意見も踏まえた校章案(15案程度)から絞り込みを行った後、児童・生徒を通じて保護者向けにアンケートを実施し、アンケート結果を参考に校章の選定を進める。」ことを確認した。
- ・校歌について、「『歌詞のフレーズを募集する』、『歌詞全体を公募する』、『学校等通じて作詞作曲可能な人に依頼する』という3種類の方向性を軸に考えること、次回の専門部会では新しい校歌に求めるイメージについて意見交換する。」ことを確認した。
- ・今後のスケジュールは、報告資料2の裏面に表としてまとめている。

【教育内容に関する進捗状況について】

(説明者：樋口総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長)

- ・現在、4小学校と中学校の教職員全体を「教育内容部会」、「集団育成部会」、「学力向上部会」等の10個の部会に分け、大阪市初となる義務教育学校の具体化を図っている。
- ・本日はその中でも、開校にむけて、独自教科「IKUNO 未来科」の開発に取り組んでいることについてご紹介する。
- ・9月10日には、各学校長、企業(株式会社リバナ様・ロート製薬株式会社様)、山口生野区長出席のもと、第1回の「産官学連携意見交換会」を開催し、予測困難な時代に目の前の課題を解決していく力を養う教育のあり方について議論を行った。
- ・席上、学校長からは、「これまで我々が与えてきた進路選択の幅が狭かったのではないか。」「9年間でキャリア教育を行うとなると5・6・7年にゆとりができ、充実させることができる点ではとても魅力的である。」「この地域には、ものづくりや企業が沢山ある。しかし、それらを活かすことができていない。」等の意見をいただいた。
- ・山口生野区長からは、「子どもは複雑で多様化している社会で生きている。しかし、学校教育はまだまだその多様性に対応できていない。生野区はものづくりも企業も多様性で溢れている。今の生野の課題解決のためにも、産官学+地域の力を子どもたちに注いでいくことが大事である」等の未来構想の中核となる義務教育学校への期待や、果たすべき役割について語り、共有することができた。
- ・企業サイドからは、「企業って何をしているところなんだろう?この素朴な疑問に大人は、学校は何ができていのだろうか。今回を機にIKUNO 未来科をIKUNOモデルにIKUNOモデルをOSAKAモデルに、その先の世界へ。」という話まで飛び出し、とても期待感が高鳴る意見交換会となった。
- ・今後も、計画的に学校づくりに取り組んでまいります。

(説明者：山口生野区長兼生野区担当教育次長)

- ・企業が関わる理由としては、ロート製菓株式会社様については生野区と包括連携協定を結んでおり、様々な国から来た研究者が働いている企業であること、工場での製造から商品企画を行う部署があり、ありとあらゆる仕事が詰まっている企業であること、また、ロート製菓株式会社様も含めた数社より、地元で長年やってこられている企業として子どもたちにできることをしたいというお声がけをいただいていることから、その力を新しい学校の中に取り込んで、子どもたちにできるだけ早いうちから、社会や世界につながる仕事はどんな仕事か、という視野を広げ、体験の機会を増やしたいという思いで、連携をスタートした。
- ・また、各学校の教員たちは、学力向上や集団育成といった、9年間通じて小、中学校でどうやって子供を育てていくかという非常に重要な部分についても話し合っており、予算が必要になれば、何とか予算をとっていい学校をつくろうという取組みをしているので、適宜ご報告もさせていただきたい。

(2) 意見等の概要

【標準服等専門部会の進め方について】

(委員)

- ・報告資料1のアンケートは簡単な内容とされているが、アンケートで、何を決めるということなのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・これまでの桃谷中学校や大池小学校の標準服等の検討事例等に当たっていただいた保護者の意見と、同じ意見であるかということをお聴くためのアンケートとしたい。自由記述の欄も設け、アンケート内容にていただいたご意見を参考として、今後の進め方を決めていきたいと考えている。

(委員)

- ・桃谷中学校や大池小学校の事例が、それぞれ小学校・中学校の単独であったことに対し、今回は義務教育学校であるので、小学生、中学生の標準服のデザインを共通のものにするのか、それとも分けるのかという意見が出てくるのではないかと。その点についても考慮いただきたい。

(樋口総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長)

- ・義務教育学校の標準服の事例について、専門部会にて、参考となるような形でお示しすることを考えている。アンケートにおいて、小学生、中学生の標準服のデザインを共通のものにするか否かについてのご意見をうかがうかという点については、専門部会で検討していきたい。

(委員)

- ・同じ令和4年度開校の田島中学校区の新たな学校の標準服等のプレゼンテーションと生野中学校区のプレゼンテーションを一緒にすれば、事業者の生産のキャパが大きくなるので、その分でもっと価格を抑えられるのではないかと意見も出た。どの中学校も上着については、細かな違いはあっても、大差はないことを踏まえ、一緒にするというのも一つの考え方かと思いい見を出した。

- ・前回の検討会議で意見が出た、新1年生への標準服等の貸与を行うか否かという点についても、部会で意見を出した。新2年生以上の児童は一度、標準服等を購入したうえで買い替えが必要になるから貸与されるが、その後に入った新1年生にも貸与すれば、その次の年に入学する児童にも貸与しなければならなくなるという考え方もあるのではないか。

(委員)

- ・正かばんも標準服等専門部会で決めるのか。

(委員)

- ・中学生は指定かばんがあるが、小学生はランドセルではないか。

(委員)

- ・そのつもりでランドセルを購入したが、6年間使用することになるのか。

(委員)

- ・小学生用の通学かばんも高価であるので、小学生の指定かばんを設けるかどうかは検討しなければならないと思う。ランドセルはどこで買っても形が同じだし、高価なものから安価なものまである。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・桃谷中学校の事例では、部会で検討を行った。

(竹口学事課担当係長)

- ・桃谷中学校の事例では、既存の校章入りの指定かばんがあり、それが変わる事となるので検討を行った。生野中学校区についても既存のものをそのまま使えるようにするか等、運用の関係もあるので、今後、専門部会において検討すべきことかと考えている。

(委員)

- ・基本はこれまでどおり、小学生はランドセルという形でよいか。

(竹口学事課担当係長)

- ・現在、学校の指定用品としてのランドセルはないので、そのようなものを含めていくと、価格自体が大きくなってくる。専門部会において、改めて意見交換をさせていただきたい。

【校章・校歌専門部会の進め方について】

(委員)

- ・校章案をCGで作ることもできるのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・CGは難しいかもしれないが、可能な範囲で作成した行政提案の図面をお示しさせていただきたい。

(委員)

- ・すでに行政から数案のデザインがあるのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・すでに考案した粗い案を前回の専門部会でお示ししている。専門部会では、「学校の先生の意見を聞いたらどうか。」、「もしも先生方でデザインや、デザインの流用等も考えているものがあれば、そういったものを参考にしながら検討してはどうか」ということでお話をしている。

【教育内容に関する進捗状況について】

(委員)

- ・「IKUNO 未来科」は当初、「ものづくり科」という表現であったように記憶している。生野区は中小企業、製造業の事業所が多く、ものづくり百景のような取組みも行っているところであるので、「ものづくり科」の方が地元に着いてじっくりやるのではないかと。

(樋口総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長)

- ・今回、新たな取組みを行うにあたり、子どもたちの学びが、地域に目を向けた、地域の良さを再発見するものであり、取り組んでいくなかで地域の皆さんも元気になっていくようなものをめざしている。いただいたご意見をしっかりと形につなげていけるよう取り組んでまいりたい。

(委員)

- ・生野未来学園の大きなコンセプトは決めていくのか。

(樋口総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長)

- ・現在、様々な部門に分けて、学校がめざすものを形付けているところであるが、まだ決定という段階ではなく、核となるものとして、未来を見据えて夢を語っていくような学校にしていくという考え方のもと、具体化を図っていきたくと考えている。

(委員)

- ・コロナ禍で家庭学習の格差もでてきている。勉強が嫌いになった子に、なぜ勉強をするかを伝えるために「将来の可能性を広げる」と言っても低学年の児童には理解できない。リモート化やICTの活用等で学習環境も多様化してきており、その状況はしばらく続くと思われる、元の教育環境にすぐに戻ることも難しいところで、令和4年度の開校となるので、とても重要な立場となってくる。

(樋口総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長)

- ・子どもたちは、好奇心、疑問に思ったことから、勉強の必要性を訴えなくとも探求する姿勢を引き出すことができるので、何を示していけるかが大切だと考えている。タブレット等の端末についても、道具の使い方を学ぶよりも、学ぶためのツールとして駆使して疑問を解決する、課題解決型の学びを採り入れていきたい。

(委員)

- ・他の小中一貫校、義務教育学校の事例では、ランドデザインがあると思うが、生野未来学園のランドデザインやスローガンはどのようなものか。

(樋口総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長)

- ・小中一貫校ではランドデザインを作成している事例も多く、各学校長ともそういった事例を共有し、早期に形にするべく様々な議論を重ねている。大阪市初の義務教育学校であるので独自性を大事にして、企業連携からもヒントをもらい、教職員の力もあわせてランドデザインにつなげていきたい。また、ランドデザインから派生する内容についても検討していきたい。お示しできる段階になれば、お示ししたいと考えている。

(委員)

- ・保護者とすれば、教育面を重要に思う。以前の説明会の際に、大阪教育大学から教員に対するサポートを受けるという説明があったが、児童生徒に向けたサポートもあればよいと

思う。

(樋口総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長)

- ・大阪教育大学との連携については、9月17日に主だった教員がカリキュラム開発についての講義を受け、基本的な内容を学ぶ等、少しずつ取組みを進めている状況となっている。

【その他】

(委員)

- ・新たな校舎について、現在の西生野小学校の西校舎がなくなり、両端の校舎が残る形となるが、両校舎をつなぐ渡り廊下がないというのは本当か。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・校舎増築工事の概要としては、西生野小と生野中学校の間に4階建ての新校舎を増築し、1階は給食室等、2階は職員室等、3・4階は普通教室等を整備していく。また、既存校舎の一部も改修していく。
- ・西生野小の北西校舎、給食室棟、生野中の木工室棟を解体し、屋外工事として、渡り廊下やビオトープを整備していく。
- ・全体の工期としては、令和4年11月までの予定となり、そのうち、新校舎の工事は、令和3年7月頃の完成を予定している。平行して行う既存校舎の改修は令和4年9月頃まで続く予定としている。西生野小の北西校舎等の解体工事は、令和3年9月頃から開始し、令和4年5月末頃までの予定となっており、その後、解体跡地の整地を10月頃まで行う予定としている。
- ・今後、工事担当部署や学校長と調整し、図面等を準備でき次第、検討会議でお示ししたい。

(委員)

- ・西生野小学校の渡り廊下はどうなるのか。

(禰宜田西生野小学校長)

- ・北校舎と西校舎の連結についてのことか。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・1階の部分が渡り廊下でつながることとなる。

(委員)

- ・なぜ、2階以上にも渡り廊下を設けないのか。隣の校舎の同じ階に行くために、一度1階に降りて、もう一度上がらないといけないこととなり不便ではないか。車いすの子どもの移動も考える必要がある。せっきくの大阪市初の義務教育学校であるので、良い校舎を建ててほしい。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・いただいたご意見を工事担当部署に伝達し、設計の変更をどこまでの範囲で対応できるのか確認を行う。

(委員)

- ・校章、校歌、標準服について、各学校長の思いを聞きたい。
- ・新たな学校における、学校体育施設開放事業はどのような形で運営するのか。それはこの検討会議の場で検討していくこととなるのか。
- ・OB会はどうなっていくのか。開校式はどこが仕切って行っていくのかということも含め

て、そろそろ決めておかないといけない時期ではないか。

(楠井生野中学校長)

- ・校章、校歌、標準服はいずれも外向きに出ていくものであり、学校を象徴するものとなる。外に向かって出ていくものであるからこそ、様々な意見を合わせた形でより良いものを作っていきたい。新しい学校の校歌は1年生から9年生が歌えるすばらしいものが良い。校章も校歌も、広く意見を聴きながら、それなりのスキルを持った方を見つけながら作っていければ良いと思う。

(末田林寺小学校長)

- ・標準服については、生活指導面も考えたものとしていきたい。校章は学校の看板となるものであるため、プロのようなデザインができる方がいないかと楠井校長とも話をしており、教職員にもデザインを考えてほしいと伝えている。校歌については、現在の林寺小学校の校歌が地域の名前や歴史を感じるものであるため、それを活かしながら新しいものを作っていければと思う。

(中山生野小学校長)

- ・校名の検討の際に、当初「生野」を省こうという話になっていた。それならば個人的には校章は生野小学校の形を残してもいいのではという考えはあった。地域の中心にあって、そこから生まれている学校が多いということを見ると、その歴史を残すものとして生野小学校の校章があってもいいのかなと考えていた。
- ・校歌には、各校毎の意味や思いが含まれている。その各校の思いをうまく組み合わせるとなると、それぞれの学校の皆さんが納得できるころまで考えるのは非常に大変だと思う。

(庄司舎利寺小学校長)

- ・校章、校歌、標準服については、思い切って新しいものを考えるのがいいと思う。せっかく新しい学校を作るのであれば、色々なものを集めて何かを作るのではなく、新しいものを作れるように、専門部会で多くの議論を行い、それをもとに子どもたち、保護者、地域に話をできればと思う。

(禰宜田西生野小学校長)

- ・校名案を募集するアンケートを行った際に、子どもたちがどんな学校がいいかという意見を出し合うとともに、保護者、地域の皆さんも考えていることで、みんなで学校を作っているという思いを子どもたちが持つことができた。校章や校歌も同じく、考えていくなかで学校の未来像や期待感といった思いが醸成されると考えられるので、校歌にはどんなフレーズがあったらいいかを子どもたちに聞いてもいいと思うし、職員に話をしてもいいかと思う。校章についても、今回、職員にアンケートをとるなかで、西生野小学校の校章の意味を確認し、思いを持って意味のあるものを作っていきたいという話をしている。

(委員)

- ・庄司校長の全く新しいものという意見も良い。

(委員)

- ・校章については、生徒から募集したところとても良い案が出てきたという事例も聞くので、子どもから案を出してもらうことも一つの手段かと思う。

(委員)

- ・地域のことはどうするのか。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・学校体育施設開放事業運営委員会は新たな学校で組織することとなる。今後、実際に関係する5校の運営委員会の委員長と協議していくこととなるので、改めて区役所担当より打診を行っていく。

(委員)

- ・OB会や閉校式はどうするのか。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・OB会については、それぞれ話し合いという形でお願ひしたい。OB会同士の連絡や連携については、学校長にも、連携のとり方等は相談しながら、スムーズにそういった話に入れるようにご協力できればと考えている。

(委員)

- ・既存の学校の閉校式は各校のOB会等が入って準備を行っていくこととなると思うが、新たな学校の開校式はどのように準備を進めていくのか。

(樋口総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長)

- ・他校の事例では、開校後に、保護者・地域・学校からなる事業委員会を立ち上げ検討を行っている。開校式は開校直後にしない場合も多く、今回は校舎の増築もあるので、新校舎の竣工式も兼ねた形とすることも考えられるのではないかと。

(委員)

- ・誰が仕切るのか。

(委員)

- ・4小1中がひとつになる開校式なので、どこが中心になり、どのようなメンバーを集めるのか。閉校式はそれぞれの学校で過去に行った式典のやり方でできると思うが、開校式となれば、その足並みを揃えるのが難しい。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・閉校式、開校式については、基本的に学校と教育委員会事務局の指導部で調整しながらやっていると認識してきた。今回改めて、どういった形で段取りを進めていくかという点を確認させていただき、次回の検討会議で正確にご報告させていただきたい。

(委員)

- ・開校時にPTAが無く、4小のPTAで開校式の仕切りができないとなれば、OB会が入るしかないと思う。それならば、行政から声かけし、各校のPTA会長、OB会会長に集ってもらい、話を詰めてはどうか。これまで各学校の関係者が様々な形で協力してきたようにしていきたいのであれば、OB会を集めてきちんと話をする場を設ける必要がある。

(委員)

- ・時間があるようでない。

(委員)

- ・あと2年なので、時間はない。

(委員)

- ・難しいところだとは思う。

(委員)

- ・だからこそ、整理してほしい。OB 会が新しい学校を応援する体制をつくらないと、現役の PTA 会長となった人が大変だと思う。

(委員)

- ・学校への寄贈等、PTA でも行政でもできないことを OB 会がやっているという面もある。新しい学校となることで、色々な面で必要なものが出てくると思う。時間があるようでないので、そういった部分も考えていかないといけないと思う。

(山口生野区長兼生野区担当教育次長)

- ・桃谷中学校の事例では、「桃谷中学校を支える会」という形で校区の4地域で OB 会をとりまとめたと聞いている。その時に誰が軸になり、どんな動きをされたのかについても確認し、次回の検討会議でご報告させていただきたい。

(委員)

- ・やはり、こちらでやることになるのか。

(山口生野区長兼生野区担当教育次長)

- ・どんな動きがあったか等、細かい内容については確認する。基本的には、OB 会は主体的に組織され動いているものとは思いますが、4小学校でどのような事情があるのか。

(委員)

- ・事情というよりも、新しい学校への愛着がない。新しい学校になれば、OB 会をやめるといふ人も出ると思われるので、早めに方針を示し、もう少しでも応援をいただきたいという方向に引っ張っていけるよう考えないといけない。

(山口生野区長兼生野区担当教育次長)

- ・各校の事情も聞きながら、また集約して話をさせていただく。

(委員)

- ・義務教育学校というものが未だにあまり浸透していない。生徒からも「なぜ義務教育学校なのか、小中一貫校でいいじゃないか」という声も聞く。小中一貫校と義務教育学校が全くの別物と思っている児童生徒もいる。行政として、義務教育学校の良さをもっとアピールしてほしい。

(委員)

- ・PTA はどうなるのか。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・これまでの事例では、検討会議等の場で PTA 同士のつながりをつくっていただき、新 PTA についての話し合いをされているが、行政としても出来る限りの調整を行いたい。

(委員)

- ・つながりを持っていただき、ではなく、そのような場をつくらないといけない。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・PTA に関しては、学校長とも相談し、円滑に新しい学校の開校に向けて準備が整うように調整させていただきたい。

(委員)

- ・行政側から提案していかないといけないことだと思う。

(委員)

- ・既存の5校連絡協議会を基盤としてもっと活用できればと思う。

(委員)

- ・既存の学校にとらわれないという意味でも、開校後にPTAを組織してもいいと思う。小学校、中学校で組織を分けるかどうかも考えないといけない。

(委員)

- ・保護者からPTAをつくろうと声をあげることは難しいと思われるので、組織の骨格はあらかじめ作っておく必要があるのではないかな。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・義務教育学校のPTA組織では9年生まで一体のパターンや小、中学校に相当する部分で分けているパターンがある。他の自治体の事例も紹介していきたい。

(委員)

- ・2年後には保護者の顔ぶれも変わっていると思うので、各学校からの指名委員は検討会議で決めておき、その後の人事に関しては、新しい学校でその指名委員が決めていくべきだと思う。

(委員)

- ・PTAは必ず必要なものなのか。教員も必要としているのか。

(委員)

- ・PTAは保護者も教員も入った組織であり、学校側が行政として困っている部分を、地域との間に入って解決策を考えられるのが保護者の立場であるので、無いよりはあった方が良いのではないかな。

(委員)

- ・今は、保護者の数も少ないので、委員会も多く、くじ引きの結果で務めている方も多い。

(委員)

- ・今は小規模校でそのような状況だが、再編により児童も保護者も増えて変わるのではないかな。

(委員)

- ・本当に子どものためにある行事や活動に絞った、ためになる組織であれば参加してくれる方もいると思う。

(委員)

- ・参加する、しないではなく、全員がどこかの委員会に入るとすれば、嫌だから参加しないということもなくなると思う。

(委員)

- ・PTAに入っても連絡がとれないという方もいる。イベント時だけ、サークルやユニット的なものを立ち上げて活動している学校があると聞くので、もしもPTAをつくるなら、今までの流れのPTAではなく、本当にためになる形につくってもらいたいと思う。

(3) 確認事項等

- ・標準服等の検討の進め方については、報告資料1のとおり今後の進め方を確認した。
- ・校章・校歌の検討の進め方については、報告資料2のとおり今後の進め方を確認した。
- ・次回の検討会議の開催日については、10月28日(水)とする。

6 会議資料

- ・生野中学校区 学校適正配置検討会議(第4回)次第
- ・報告資料1 標準服等専門部会の進め方について
- ・報告資料2 校章・校歌専門部会について